

水稻の植付本数低減によるトビイロウンカの耕種的防除							
〔要約〕 <u>水稻の植付本数</u>を1本にすることで<u>トビイロウンカ</u>の発生密度を低く抑制できる。							
生産環境研究所・病害虫部・普通作物病害虫研究室					連絡先	092-924-2938	
部会名	農 産	専門	作物虫害	対象	稲類	分類	指導

〔背景・ねらい〕

トビイロウンカは水稻の主要害虫であり、普通期水稻の生産体系においては基本的に防除が必要な対象とされている。一方、近年農作物の生産においては農薬の使用量を極力減少するか、または無防除とすることが求められている。

トビイロウンカ成虫がイネに寄生する、いわゆる定着に際してはイネの生育状況が影響を及ぼすことが知られている。そこで、イネの植付本数がトビイロウンカの定着とその後の増殖に及ぼす影響を明らかにし、本種の耕種的防除法の基礎資料とする。

〔成果の内容・特徴〕

- ①トビイロウンカのイネにおける定着密度はイネの植付本数が少ないほど低く、定着密度は1本植では4本植の60%以下、8本植の40%以下である（データ略）。
- ②本種の密度は1本植では2～8本植に比べて低く経過し、特に本田後期では8本植とは10分の1以下の密度である（図1）。
- ③平成3年、4年の定着密度も植付本数が少ないほど低かったが、栽培後期の増殖はいずれの植付本数においても極めて低かった（データ略）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①防除基準に掲載し、トビイロウンカ防除上の参考資料として活用する。
- ②トビイロウンカ飛来量がきわめて多く、夏季高温に経過する年次においては1本植の本種抑制効果は明らかではない。
- ③植付本数低減によるトビイロウンカ密度抑制効果は中晩生品種では期待できるが、早期「コシヒカリ」や早生品種では本種飛来期にイネが大きく成長しているため、密度抑制効果が小さいと考えられる。またイネの収量への影響は品種により異なると考えられるので、植付本数低減に際しては注意する。
- ④本試験は1区1.5a程度の小規模の試験であり、広面積に実施した場合の密度抑制効果については明らかでない。

[具体的データ]

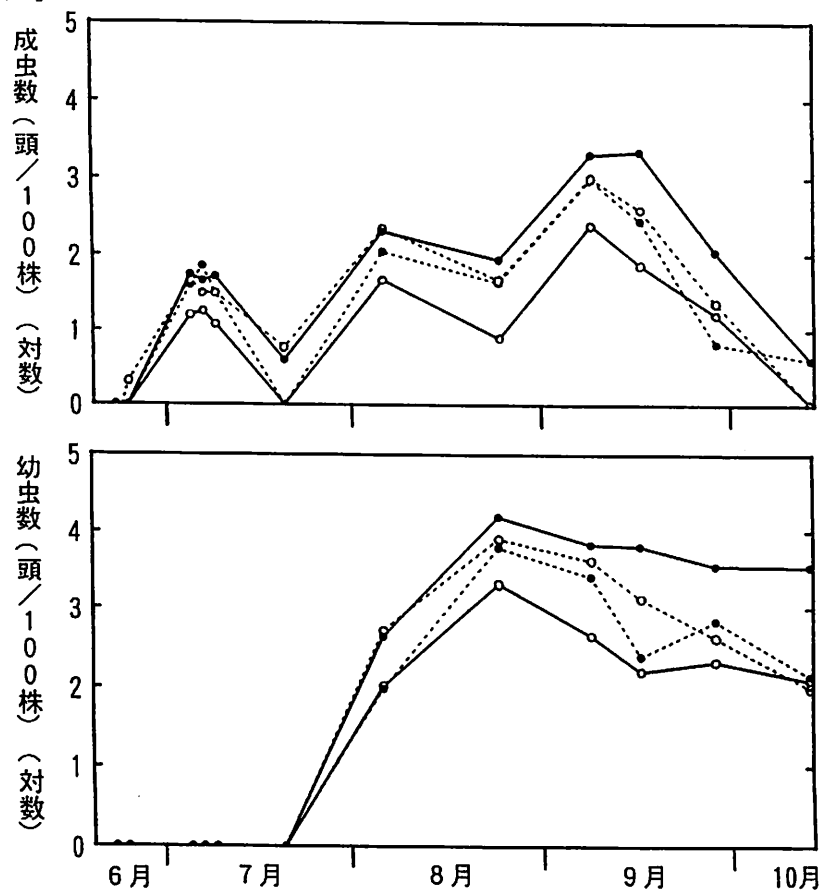


図1 トビイロウンカの植付本数別発生消長 (平成5年)

注) ① —○— 1本植○..... 4本植
●..... 2本植 —●— 8本植

[その他]

研究課題名 : 病害虫発生抑制要因の解明

予算区分 : 経常

研究期間 : 平成5年度 (平成3～5年)

研究担当者 : 中村利宣、嶽本弘之

発表論文等 : 平成5年度生産環境研究所病害虫部普通作物病害虫関係試験成績概要書